

## ■今月の特選句



## 夏草を雑草と呼ぶ大雑把

明神正道

「大雑把」の表現には、それぞれ名があるのに申し訳ないという気持ちを感じられる。高く茂って細かく分類できない夏草の勢いもよく出ている。

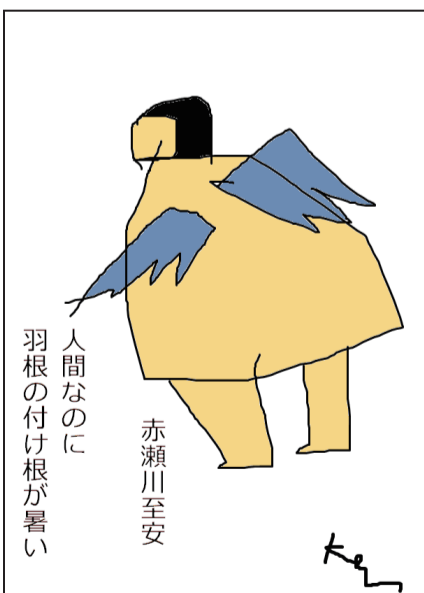
。



## 我が影の我を離れぬ大暑かな

名本敦子

光強ければ影の濃し。ゲーテの名言の一つである。黒々とした影が何処へ行ってもまとわりつく鬱陶しさよ。影を書くことで暑さが強調された。



## 人間なのに羽根の付け根が暑い

赤瀬川至安

一見、散文のように見せてちゃんと十七音になっている。「背中が暑い」では当たり前で詩がない。羽根の付け根は人体の場合、肩甲骨辺りだろう。

■今月の特選句

2023年9月



## 山開き石槌の山歳取らず

門屋 定

山に年齢があるとは考えたこともない。変わらない風景を、齢を取らないと表現したのは実に見事。自然界はいつまでも若々しくいてもらいたい。



## 蛙にまだ告げてない田はやめました

鈴木和枝

農業人の心は大自然やそこに生きる小動物と一体。米作りをやめると決心したが、まだ知らせていない相手がいる。蛙には仁義を切らなくちゃ。



## この汗が生きてる証 抛滴れる

吉川正紀子

冷房の中では汗もかかぬが、炎天に出れば汗が無尽蔵と思われるほど出て驚く。その汗に、自分が生命体であり、生きていることを実感する。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

天気図の赤赤すぎるこの暑さ ・・・色にも温度赤は高温	井野ひろみ
火遊びも水遊びも好き夏休み ・・・危険と楽しさ隣り合はせで	谷本 宴
炙られて大見 <sup>アツビ</sup> 得切れる大鮑 ・・・鮑大きく首をひねるや	西野周次
今日も茄子明日も茄子明後日も ・・・なすすべ知らずなすがままなる	久松久子
<sup>カビ</sup> 黴 <sup>カビ</sup> 哀し己が何か知らずして ・・・華美と呼ばれてお洒落なものと	北熊紀生
炎天下一気に縮む背丈かな ・・・感じたことを誇張して佳句	井口夏子
原爆の真相知るや百日紅 ・・・大量虐殺人体実験	横山洋子
帰省子に補正予算のおこづかい ・・・大蔵省もすんなり通過	高田敏男
指折つて遠雷までの距離測る ・・・音速三四〇掛けて	鈴鹿洋子
軽く一杯ジョッキは重い生ビール ・・・一気に飲んでもう一杯を	柳村光寛
足湯より浴衣に戻るふくらはぎ ・・・浴衣着せられおとなしくなり	長井多可志
夏休み鮑に不貞寝の通信簿 ・・・居間に飾れぬ成績なれば	長井知則
いちに一さ一ん浴衣の金魚数えてる ・・・誰にもありし幼き日々よ	永易しのぶ

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

草いきれのがれ半裸に野良着干す	相原共良
羅や乳房は揺れるかたちして	相原共良
泣き疲れ眠る稚児の汗みどろ	相原共良
狙われるものは金のみ生身魂	青木輝子
源内の魔法の一言鰻の日	青木輝子
敗戦忌男尊女卑の世ジ・エンド	青木輝子
いつものやうに歩いてみたらついで	赤瀬川至安
目の前を金が飛ぶなり金亀虫	赤瀬川至安
片蔭にお話してゐる猫二匹	荒井 類
八月九日をハグの日とのみ言ふ孫よ	荒井 類
立秋や最高気温四十度	荒井 類
除草剤浴びて枯れたる木に詫げる	井口夏子
甚平着て好きなことして一日暮る	井口夏子
顔は汗おへそは笑う夏ファッション	池田亮二
百年の長寿を売るやほうずき市	池田亮二
流しさうめんまづは座席の争奪戦	石塚柚彩
夕日落つゴジラのごとき雲の峰	石塚柚彩
小蠅さへ恐いと逃げる都会の子	石塚柚彩
片蔭を忍者の如く伝ひゆく	伊藤浩睦
皮膚呼吸できないほどに日焼止め	伊藤浩睦
俳句には羅宇屋(らうや)鑄掛屋(いかげや)金魚売	伊藤浩睦
ミニ扇風機で声を変換孫とおしやべり	稲葉純子
ガラス瓶道に転がり原爆忌	稲葉純子
気概てふもの枝先の空蟬に	稲葉純子
次々と投句締切り蟬時雨	井野ひろみ
胡麻堂は護摩堂と知る夏休み	井野ひろみ
蚊の羽音怪しむカフェのモーニング	上山美穂
セミ社会個人情報まくし立て	上山美穂
夕立のバッグを守るゴミ袋	上山美穂
下戸ですが梅酒のソーダ割りは好き	卯之町空
浴衣着て金星さがす旅に出る	卯之町空
かき氷食べつ屋台をひやかして	梅野光子
夏休み子らのもどれば家笑ふ	梅野光子
塩辛蜻蛉物干し竿でひと休み	梅野光子
豚小屋の臭ひひときは炎天下	遠藤真太郎
黍風は無農薬との朗報来	遠藤真太郎
童歌より民謡に馬の市	遠藤真太郎
炭酸が消えてしまつた熱帯夜	大林和代
揚花火指てつぼうで打つ子かな	大林和代
熊蟬よ背中をかいてくれないか	大林和代

白球に青春見たは昨日の夏	小笠原満喜恵
一服の木蔭に聴くや蝉しぐれ	小笠原満喜恵
ビアガーデンかかげるジョッキに光る汗	小笠原満喜恵
花蘇鉄金の剣で空を刺す	岡田廣江
夏の陽のさめて早々秋の虫	岡田廣江
露草の露に犇き石仏	岡田廣江
インコよ来い肩に粟の穂乗せて待つ	加藤潤子
芋蒸しパンでお腹ふくらみイモムシに	加藤潤子
枝豆に塩をふれふれ酒を飲め飲め	加藤潤子
木登りの順位変わらず蟻の列	門屋 定
胡瓜巻き所望をすれば手巻き寿司	門屋 定
子が一人父(ちやん)二人也ちやんちやんこ	北熊紀生
ミシシッピ(Mississippi)洪水「S」「i」氾濫か	北熊紀生
蜘蛛出たとスプレー探すキャンプ場	木村 浩
喫煙場キャンプに来てもまず探し	木村 浩
真夏の夜日本兵の行進す	金城正則
敗戦日をそろそろ忘れ平和ボケ	金城正則
熱帯夜過熱報道に熱中す	金城正則
俳句修行春夏秋冬十二年	久我正明
蚊を避ける網を被りて草を刈る	久我正明
蟻地獄その外にある本地獄	久我正明
露草のブルー光のフェルメール	工藤泰子
蒲の穂の齧り付きたき色かたち	工藤泰子
蒲の穂の経典のごとありがたし	工藤泰子
雨後の月湯の町鎮め青葉木菟	くるまや松五郎
柵に縷紅眇の猫の通り道	くるまや松五郎
友おくり伊佐爾波坂や晩夏光	くるまや松五郎
底石を吸うては吐いて金魚かな	桑田愛子
ほうき星のごときパーマ弾ける夏の女(ひと)	桑田愛子
網棚に手の届かない溽暑かな	桑田愛子
潜り抜け茅の輪によるり妊婦さん	壽命秀次
家猫もハンターなるや蜥蜴追ふ	壽命秀次
似合つてる積もり一張羅の夏帽子	壽命秀次
ものぐさに手っ取り早き冷奴	白井道義
噴水の飛沫を浴びて待ち惚け	白井道義
休肝日また先送り酔芙蓉	白井道義
母親の機嫌伺う夏休み	鈴鹿洋子
おじぎ草確かめたくて触れてみる	鈴鹿洋子

鶴を折るようにはいかない七十後半  
 AIチャット私のカバンに入らない  
 太陽のやうに描かれ大向日葵  
 鈴蘭の大群生や息つまる  
 ひと休み菖蒲園めぐる車椅子  
 薫風や一瞬止みし刻おなら  
 風鈴のカンカンちんちん心地よし  
 言ふまいと思へどうつかりでる「暑い」  
 口車乗つては降りる生身魂  
 蜘蛛の糸わが家も家計つな渡り  
 いそいそと新米を吹く米寿かな  
 前歯なき口から飛ばす西瓜種  
 台風よ北進せよと振る手旗  
 夕立や飛田のをんなに掴まるか  
 夜濯はお手の物なりひやとひは  
 道迷ひせぬやうにせよ夏の山  
 まつすぐに帰る気はなし牛膝  
 稲妻の突如あらはる一大事  
 巻き尺の戻らなくなる流れ星  
 夏休みダラダラせずにゲラゲラス  
 炎昼やすべての人が赤き顔  
 蚊の止まりラジオ体操いちにのパシン  
 急坂を帰るにまづは削氷を  
 みな元気金魚すくひの網尽きる  
 はらはらがどっしりとなるサングラス  
 前から見ればピグモンだよ虎魚は  
 片蔭を見つけてそこを出られない  
 あきらかに物干しねらう夕立雲  
 カラフルなすててこりラコとよばれみて  
 長雨の晴れ間のやうに白丁花  
 万緑や舌で確かむ残りの歯  
 浴衣着た子規と道後で会えさうな  
 秋色の絵手紙飾れば秋近し  
 義父母(ちちはは)の介護を終えて墓参  
 風鈴の鳴るを待ってる子犬かな  
 恥づかしや極暑にノースリーブの腕さらし  
 てんでんこに逃げゆく蟻の速さかな  
 咲きみちて驕りの色や白はちす  
 混沌の世を知らずして蝸牛  
 タタンタップダンスを秋の風

鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 高岡昌司  
 高岡昌司  
 高岡昌司  
 高須賀溪山  
 高須賀溪山  
 高須賀溪山  
 高田敏男  
 高田敏男  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中やすあき  
 田中やすあき  
 田中やすあき  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 坪田節子  
 坪田節子  
 坪田節子  
 坪田節子  
 長井多可志  
 長井多可志  
 長井知則  
 長井知則  
 永易しのぶ  
 永易しのぶ  
 名本敦子  
 名本敦子  
 西野周次  
 西野周次

名ばかりと皆に無視され秋に入る	花岡直樹
七夕や星も対面四年振り	花岡直樹
猛暑日に勇んでビール冷やし過ぎ	花岡直樹
一喝の雷親父梅雨明るる	浜田イツミ
補聴器は中古車の値やかたつむり	浜田イツミ
工作は父の得意ぞ夏休み	浜田イツミ
龍淵に潜むや樹々は空覆ひ	東 麗子
新走り仲人口の付録とす	東 麗子
秋蝶の吹き上げられてゆく飛沫(しぶき)	東 麗子
朝顔に笑はれてゐる朝帰り	久松久子
寄席芸人扇子一本芸百技	久松久子
嘘泣きでしたと言はんばかりの梅雨晴間	日根野聖子
梅雨明のニュースに太陽大はりきり	日根野聖子
執筆やまづは夜食を整へて	日根野聖子
夏桑や少年遠くの少女呼ぶ	ほりもとちか
梶子や彼からの文長い長い	ほりもとちか
虎尾草を一本摘んでもいいですか	ほりもとちか
いちいちうるさい最新式の冷蔵庫	南とんぼ
メールにて生存確認この夏は	南とんぼ
アスファルトのフライパンめく油照	南とんぼ
火宅にも猫は居座る谷崎忌	峰崎成規
沸点に近き大暑や地球病む	峰崎成規
売り言葉買はぬと誓ふ敗戦忌	峰崎成規
ミニ封筒にピンクの切り絵風涼し	明神正道
大空襲の焼夷弾のごと花火玉	明神正道
血糖値甘酒飲んで気になりぬ	村松道夫
誇らしき妻と手をとる盆踊	村松道夫
ほんとうは嫌はれている草むしり	村松道夫
ちんたらちんたらちんたら老ゆビール	椋本望生
タイガースの優勝はいつ鼓虫(まいまい)や	椋本望生
叱つてもだんまり通す冷蔵庫	椋本望生
声の華咲かせてをりぬ油蟬	森岡香代子
天の川ぴちやぴちや渡る盥の舟	森岡香代子
絵団扇の裏の広告電気店	森岡香代子
一張羅の水着のためのダイエット	八木 健
こんこんと西瓜を打診お医者様	八木 健
かき氷食べ終へたとき夏果てる	八木 健
水撒けどでんと居座る秋暑かな	八塚一青
野の花を愛でるあなたは粒あん派	八塚一青
隠し湯に曲者がいる轡虫	八塚一青

北斎の波打ち寄せ団扇風

ゴキブリに何もてなさん週刊誌

扇風機夫婦へ風見鶏の風

老鷺のC調となる谷渡り

日盛や電柱の影干からびる

梅雨明や「うちぬき水」のアイスコーヒー

白シャツやカレーうどんに抗えず

ペコちゃんとサンドレスの子ダンスして

夜に咲くサボテンの花たわわなる

スマートホン熱中症にかかりたる

一番に咲くアサガオの誇らしき

キャンプファイヤー火の神を呼ぶ儀式とも

羽音追いカミキリムシと鬼ごっこ

叩かれて甘味の増すやスイカ割り

呼ばれたか蜥蜴ひっこむ朝の庭

間違えたように大輪紅蜀葵(こうしよつき)

豪快に仕入れて薔薇をピーコック

好々爺シンプルイズベストと冷奴

踊り子を足速にする遠花火

耳迷ふ耳鳴それとも蝉時雨

根性の証拠の爪や蝉の殻

炎天や近づくバスに赤信号

指先のしなる弾ける阿波踊

クラスター弾の足音怖し原爆忌

一秒で変身できるサングラス

荒梅雨に恐る恐るの戸閉かな

日の神に啖呵切つてるサングラス

柳 紅生

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山内 更

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山本 賜

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子